



TITLE:

米國研究の必要

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 米國研究の必要. 經濟論叢 1923, 16(3): 571-575

ISSUE DATE:

1923-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127999>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷六十第

行發日一月三年二十正大

論叢

サン・シ
モン派の社會改造哲學及び連帶思想

文學博士 米田庄太郎

加特力教の社會論者に就て

法學博士 田島 錦治

階級に就いて

文學博士 高田 保馬

基督教文明の發展概論

法學博士 財部 靜治

時論

地租論

法學博士 小川郷太郎

小作調停法案に就て

法學博士 河田 嗣郎

說苑

舊岡山藩の社倉法に就て

經濟學士 黒 正 巖

雜錄

米國研究の必要

法學士 本庄榮治郎

性別年齢別失業統計

經濟學士 岡崎 文規

アダム・スミス生誕二百年

法學士 本庄榮治郎

雜 錄

米國研究の必要

本庄 榮治郎

人は言ふ「北米合衆國は恐るべき國であり、羨むべき國である」と。合衆國の天恵の極めて豊かなことは、嘗て聞き及びし處であるが、脚、一度合衆國の地を踏み、陸路之を横斷するに及んで其富源の如何に大なるかに、今更ながら喫驚せざるを得なかつたと共に、天恵の貧弱なる我國と對比して、眞に米國の恐るべき羨むべき國である所以を知り得たる如き心地がしたこの無盡藏なる富源を有し、尙且つ世界に比すべきものなき偉大なる資本の力を以てこれを開發し、利用するに於て、合衆國が世界一の經濟力を有し、天下意の如くならざるものなしの慨

あるは、眞に恐るべく羨むべき次第ではない乎

二

合衆國東部の工業地は姑く措くも、西海岸のワシントン・オレゴン・カリフォルニアの三州に至つては、自然の富源は極めて豊饒であつて主として農産・林産・鑛産を以て知られて居る。即ち此等の地方には數千年來未だ銚銭を入れざる深林あり、年々山火の爲めに焼失するも、荒廢するに委せて顧みざるほど、山林の天恵は豊かである。而も林材のみならず、金鑛・炭山・油田を包藏し、更に又一方には田野遠く拓けて果實蔬菜等の世界的の産物がある。中部のアイオワ・アイリノイスに玉蜀黍、カンサス・北ダコタに小麥、コロラドに砂糖、テキサスに綿等の代表的産物がある。シカゴより南西ロスアンゼルスへ下るサンタフェ線の汽車は、數日の間一望際涯なき大沙漠の内を走り、此等の地方は極めて不毛の地の如くに見ゆるが、一度これに灌漑の設備を施さむか、忽ち化して肥沃地となり、多量の農産物を産出するに至つては、天恵の厚き

1) Resources and Industries of the United States. 1919. Chap. III. VI. VII. Statistical Abstract of the United States, 1920, pp. 152, 154, 163, 156.

こと驚くの外はない。

以上の如き豊饒なる天恵によつて、小麥は全世界産額の約三〇パーセント、大麥は一三パーセント、玉蜀黍は七一パーセント、綿は五八パーセント、銅は五五パーセント、鉛は三二パーセント、亜鉛は二九パーセント、金は一五パーセント、石炭は四〇パーセント、石油は六五パーセントを産出し、實に自給自足の一大樂園を現出しつゝある。

三

コロンブスが亞米利加大陸を發見したのは一四九二年であるが、現在の北米合衆國の出來たのは寧ろ一七七六年の獨立戰爭以後と見るのが適當であらう。即ち國を開いて以來未だ一世紀半に過ぎざるにもかゝらず歐洲諸強國が數世紀を費して漸く成し得た處を、この短期間に成し遂げたものであつて、世界戰爭によつて合衆國は世界の最大強國たるの地位を確立し、その志す處一つとして成らざるなしといふ勢にまで進んで來た。

今試みにワシントン會議の時、合衆國政府が參考資料として發表した關係列國の國富を見るに次の如くである。

國名	人口	國富	一人當り國富
合衆國	104,102,711,000	23,630,000,000	228元
英國	46,552,000	10,000,000,000	215元
佛國	41,826,000	10,000,000,000	241元
伊國	35,250,000	10,000,000,000	287元
日本	35,250,000	10,000,000,000	287元

更に合衆國のみの國富の發達を見るに、

年次	國富	一人當り國富
一九〇〇年	8,812,750,000	112元
一九〇四年	104,102,711,000	111元
一九一二年	12,452,000,000	125元
一九二一年	23,630,000,000	228元

であつて、一九二一年の國富は一九〇〇年の國富に比して殆んど四倍に昇つて居る。

かくの如く驚くべき發達を遂げ、以上の如き地位を有する合衆國は、たゞそれだけの範圍内に於ても、經濟學上研究すべき至大の必要あることは勿論であるが、更に進んで我國と合衆國

2) Resources and Industries etc p. 13. Statistical Abstract p. 14 et seq.
 3) Keir, Manufacturing Industries in America, 1920, Chap. I.
 日本銀行調査外國經濟統計
 4) Statistical Abstract of the United States, 1920 p. 764.

この關係を一考せば、その必要の一層大なることは自ら明かであらう。

四

以上述ぶる如く合衆國の富源は極めて豊かであるに拘らず、我國の天恵は極めて乏しく、食糧は我國民の需要を纔かに充たし得る位のものであつて、合衆國の如く他國に輸出するの餘裕なく、（合衆國に於ては國內に産する所を以て國內の需要を充たし、尙且此獲の一〇乃至一五パーセントを輸出するを常とする）⁵⁾ 林産、鑛産の如き、もとよりいふに足らず、地積は甚だ狭くして、人は極めて密集し、富源は既に殆んど開發し盡されて、國民の生活は極めて困難なる有様である。而も我國と合衆國とは纔かに太平洋を隔つるのみにて、政治上に於ても經濟上に於ても文化上に於ても密接なる關係を有して居る。

五

凡そ我國の文明は古代より現在に至るまで、常に外國の文化に接し、これを咀嚼して築き上げられたものであつて、外國交通との關係が頗

る重大なる要素をなせることは否定することが出來ない。而して維新後の發展については、西洋文明の吸收咀嚼といふことが、最も重要な要素をなせることは論する迄もない處であつてその所謂西洋文明には或は英あり、獨あり、佛あり、或はまた米あり、從て歐化と米化との兩方面の存するわけであるが、抑も徳川三百年鎖國の夢を破つて、我國を世界の交通圈内に導き出したものは合衆國であるのみならず、其後と雖、西洋文明の輸入は、其初期に於て、合衆國に負ふ所が頗る多かつた如くに考へられる。更に降つて現在に於ても、我國と合衆國とは政治經濟社會上頗る密接なる關係を有する事は改めて説く迄もない所であつて、例へば貿易關係に就いて考へて見ても、輸出輸入共に合衆國が第一位を占め、大正十年には輸入は全額の三六パーセント、輸出は三九パーセントを占めており其他の經濟的關係に就ても閉却することの出來ない關係を有つて居ることは、一一詳細なる説明をなさずとも既に讀者周知の事柄であらう。

5) Keir, *ibid.*, p. 14

六

合衆國の經濟上の發展は眞に驚くべきものがある。上述の如き豊富なる天恵に據り、偉大なる經濟力を以て、所謂平和の産業戰に臨める場合、我國は果して如何なる對策を有する乎。是れ實に焦眉の急に迫れる問題ではない乎、然らば則ち合衆國現時の經濟事情を研究し、これを正解することは極めて必要な事柄であつて、實に我國民にとつては、急務中の急務ともいふべきものであらうと信ずる。

七

然し更らに一步を進めて合衆國が、今日所謂「世界一」の地位を占め、すべての事柄に對して、この「世界一」たる地位を有するに至つた原因、顛末を研究することは更らに一層重要なものと考へざるを得ない。茲に於てか、合衆國經濟史の研究は我國學徒にとりて盛んに研究せられざる可らざる題目でなければならぬ。

八

從來我國に於ける一般歴史の教授及び研究を

見るに、通常これを國史・東洋史・西洋史の三大部門に分ち、西洋史といへば、先づ歐洲の歴史が主であつて、亞米利加史なるものは、比較的等閑に附せられ、加奈陀史の如きは殆んど顧みられざりしが如き感あることは、既に内田博士も述べられた所の如くである。⁶⁾ 一般歴史に於て既にかくの如くであるから、經濟史に於ても亞米利加經濟史の如きは、あまりに研究されず、西洋經濟史といへば、英國經濟史又は歐洲經濟史に限つたものゝ如くに取扱はれて居る。

是れ即ち西洋史又は西洋經濟史に對する分化的研究が未だ十分に行はれざることを示すものであつて、學界の進歩に對し甚だ遺憾なる次第であるが、一方には亞米利加なる國が建國以來日尙は淺き新國なるがため、また從て研究者の學問的興味より云ふも、寧ろ中世歐洲史の如きものゝ方が興味多きため、自然に閑却さるゝに至つた事情もあるかとも考へられる。

九

我々は往々にして概括的に泰西といひ、西洋

といひ、又は歐米と稱し、歐羅巴と亞米利加との間にあまり多くの差別を認めず、歐米先進國のことを不用意に概稱して仕舞ふ傾がある。然し歐羅巴と亞米利加との間には、種々の點に於て非常なる差異の存するのみならず、學問研究の常態が、粗より密に、一般的より特殊的に進むものである以上、所謂西洋史に就ても歐羅巴史と亞米利加史とが適當に對立せしめらるべき時期が來らなければならぬ。このことは西洋經濟史に就いても同様であつて、西洋經濟史の概稱の下に、極めて少き頁數を亞米利加經濟史のために割くことは妥當なりとは認むることが出來ぬ。

十

既に述べたる如く合衆國の經濟的發展が實に驚くべきものであり、而もその發展たるや歐洲諸國が數世紀を費せし所を僅々一世紀半にて成し遂げしものであるから、合衆國經濟史の研究は、一面に於て歐洲經濟史の縮圖を見るが如きものであるのみならず、他面に於てかくの如き

異常なる發達をなせし所以は、歐洲各國と何等か異なる事情の存せしためであつて、これを究明することは、とりも直さず合衆國の經濟的發展に一の特徴の存することを示す所以であつて經濟史の研究上頗る重要な事柄たるを失はぬこの點に關してはターナーの國境説は重大なる意義を有するものであらう。加之、我國と合衆國との經濟的關係が上述の如く密接なるものありとせば、合衆國の經濟的發展を知ることには、我國民にとりて頗る必要なることといはざるを得ぬ。さればこの偉大なる恐るべき羨むべき合衆國を、經濟學上又は經濟史上、精細に研究することは我國學徒の寸時も等閑に附することの出來ぬものではなからうか。這回余が合衆國を経由して歸朝するに及び、痛切にこの感念を懷きしまゝ、こゝにその所感の一端を披瀝して合衆國研究の必要を高調する所以である。